昭和26年3月12日第3種郵便物認可　平成24年5月1日発行（毎月1日発行）第62巻 第5号
ISSN 0913-9850

2012 Vol.62

5月号

MONTHLY

かもつ

平成24年度事業計画

フォークリフト完成品を
12ftと31ftコンテナで輸送
株式会社豊田自動織機

公益社団法人 鉄道貨物協会
日本貨物鉄道株式会社

公益社団法人 鉄道貨物協会

我が国の貨物輸送の分野について、物資の安定・供給及び地球環境負荷（輸送量当りのCO_2排出量）の観点から、輸送方法の研究及び研究成果の普及啓発活動を行い、以って国民の生活に不可欠な物資の安定供給及び地球環境の保全に資することを目的とする。

Index

表2 土木・建築遺産

1 公益社団法人 鉄道貨物協会
平成24年度事業計画

4 エコレールマーク認定企業紹介
フマキラー株式会社

5 事業活動　「貨物時刻表」の販売（宮城県）

6 お国自慢　宮島

7 第1回常任委員会を開催

8 本部委員会の審議内容

10 2012時刻表　好評発売中

12 FREIGHT EYE

14 会員企業紹介　サッポロビール株式会社

15 協会ニュース／リフレッシュクイズ

16 モーダルシフト　株式会社豊田自動織機

20 貨物駅の仕事ガイド
コンテナの持出・持込　百済駅

22 SPOTLIGHT　JR貨物の平成24年度事業計画

24 トピックス

表3 「FREIGHT EYE」撮影メモ／JR貨物輸送概況

公益社団法人 鉄道貨物協会

平成24年度事業計画

わが国経済は、復興関連需要の増加による内需の回復が期待されるものの、取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。今こそ、国の総力を結集して、被災地復興へのスピード感のある確実な対策と人口減少・地球温暖化対策等の諸課題に対応した交通基本法の制定及びその具体策の企画・立案とその果断な実行が強く求められています。

こうした中にあって、当協会は国民の生活に不可欠な物資をより安定的に供給し、かつ環境負荷を低減させるため、貨物の輸送方法について調査及び研究を行い、その成果として鉄道貨物輸送のもつ環境特性・安定性の普及啓発に資する事業を展開してまいります。

主な活動は、以下のとおりです。

RAILWAY FREIGHT ASSOCIATION

1 本部委員会活動

平成24年度の本部委員会は、昨年度に引き続き「利用促進委員会」、「輸送品質向上委員会」の2委員会構成とし活発な委員会活動を推進してまいります。併せて環境問題についても両委員会において当協会の基本活動である「エコレールマーク事業」と連携して積極的に取り組んでまいります。

委員会審議テーマについては、荷主企業会員の声を反映させるなかで、一委員会2テーマの計4テーマを選定し、委員会活動を進めてまいります。

「利用促進委員会」では、

(1)メインテーマ・「鉄道コンテナ利用推進のための意向調査の実施および利用促進策の提案」

(2)サブテーマ・「利用促進に資する拠点およびインフラのあり方」

荷主意向調査により、鉄道コンテナ輸送の潜在的なニーズを把握したうえで、インフラ整備のニーズが高い候補地周辺の市場調査を行う。

「輸送品質向上委員会」では、

(1)メインテーマ・「荷擦れ・荷崩れ対策としてのコンテナの内装及び養生材に関する調査研究と提案」

(2)サブテーマ・「鉄道コンテナ輸送事故防止資材の効果検証調査」

既存の防振機材で鉄道コンテナ輸送に利用可能な資材を選定し、その防振効果及び有効性を検証し、鉄道輸送用防振機材の実状を把握する。

なお、平成23年度本部委員会報告書を、鉄道貨物輸送の認知度向上と利用促進を図る目的で、広く全国の国公立等の図書館及び各都道府県、関係市町村に対し寄贈いたします。

本部委員会による見学会

2 「エコレールマーク」の普及

平成24年度はマーク事業の基盤の確立に努め、取組企業100社、登録件数300件へ増加することを目指してまいります。そのために、スーパー、ホームセンター、家電量販店等の流通ネットワークを最大限活用し、マークの認知度向上に取り組み、参加登録企業を巻き込んだコラボ活動の展開を図ってまいります。その他、商品登録のされていない取組企業に対し、商品認定申請を働きかけます。あわせて、商品認定取得製品へのマーク表示拡大活動も行ってまいります。また、認知度向上活動においては、貨物時刻表とのコラボレーションを行います。

<平成24年度の「エコレールマーク」活動方針>

- 取組企業100社／登録件数300件を目指す
- マーク表示商品を増やすことにより、一般消費者の認知度向上を目指す。
- 認定企業との関係を強化し、企業の広報戦略に「エコレールマーク」の採用を要請
- 支部と本部の連携を更に強化し、全国区のPR活動を実施
- メディア・映像業界との接点の拡大を目指し、着ぐるみ「エコレールマークちゃん」の活用を強化

エコレールマーク運営・審査委員会

エコレールマーク

エコプロダクツ2011に出展

3 支部活動の活性化と充実

各支部にあっては、協会構成三者を基本に広く一般消費者の参加を求め、支部活動の更なる活性化と充実に努めるなかで、地域経済の発展に寄与すべく活動を推進してまいります。

その取り組みの一環として、各地域における鉄道貨物輸送の利用促進や輸送品質向上に関する身近な課題を継続的に検討する場として、各支部に「利用促進会議」を設置し、都度開催してまいります。

(1)地域に即した「利用促進会議」との連携強化

各支部の「利用促進会議」の更なる充実を図るべく、本部としても本部委員会である「利用促進委員会」と「輸送品質向上委員会」を窓口に、支部活動に対し積極的に参加し、支援し、連携の強化を図ってまいります。

(2)「エコレールマーク」の普及に向けた取組

各地域における環境イベント等への参加、各支部開

催の諸会議などを通じて「エコレールマーク」制度並びに「エコレールマーク」の活動状況のご案内により認知度の向上を図るとともに、認定企業への参加要請活動を積極的に推進してまいります。

(3)鉄道コンテナ基礎知識等各種講習会の開催
各種講習会を通じて、実務者の知識を深めていただき、鉄道貨物輸送の利用促進につなげてまいります。

(4)講演会、セミナーの開催
各支部において、鉄道貨物輸送の環境特性を一般社会に周知することを目的に、有識者による講演会やセミナーを開催してまいります。なお、開催について協会ホームページ等で一般に公開しています。

(5)物流施設及び企業見学会の開催
物流施設、製造工場などの見学会を実施し、会員等各社の今後の業務に役立てていただくとともに会員等相互の情報交換を図ることで、鉄道貨物輸送の認知度向上と利用促進に向けた取組を積極的に推進してまいります。

会員各社から多数の方々が参加される鉄道貨物セミナー

支部主催で開催される利用促進会議

4 会誌「マンスリーかもつ」の発行

会員等相互の情報交換の場を提供する媒体としての役割を果たしてきた会誌ですが、公益法人化を機に、本協会の諸活動を社会一般に公開していくことを前提とした企画内容に改訂してまいります。
(1)本部委員会活動の一般への幅広な紹介
(2)エコレールマーク活動のPR強化
(3)支部活動の地域社会への情報発信
(4)鉄道貨物応援団である会員等の紹介等
上記の内容を中心に広く社会へのアピールを可能とする編集を目指してまいります。

5 貨物時刻表の発行

平成23年度版貨物時刻表は編集体制の一新を図り、読者に対して鉄道貨物輸送の果たす役割について伝達する媒体を目指した企画としましたが、平成24年度版は「公益法人創立記念号」として刊行し、当協会の調査研究内容の公開を更に深度化し、国民一般に親しまれる鉄道貨物輸送への広報活動を強化してまいります。

6 会員等増加運動の推進

環境負荷が少なく国民の生活物資を安定供給できる鉄道貨物輸送の幅広い応援団としての当協会の活動が公益事業と認定されたメリットを前面に出し、いろいろな機会、また、いろいろなツールを利用し、会員等増加に向けて取り組んでまいります。
<会員等データシステムの導入による全国展開>
・全国各支部での運用開始
・パソコン通信での会員等とのインターフェイスを図る（ウェブ会員等の新設）
・システムの深度化を図り、会員等の満足度向上を図る（協会情報提供ツールの多様化）

如水会館で開催された第1回理事会の模様

7 本部主催会議の予定

(1)常任委員会	4/11(水)	如水会館
(2)理事会	4/25(水)	如水会館
(3)定時社員総会	5/28(月)	如水会館
(4)全国事務局会議	7/12(木)~13(金)	神奈川県
(5)理事会	秋口	如水会館
(6)評議員会・講演会	秋口	如水会館
(7)本部委員会(利用促進・輸送品質)	年8回	協会本部
(8)幹事長・事務局長会議	3/上旬	如水会館
(9)本部委員会合同会議	3/上旬	都内
(10)エコレールマーク運営・審査委員会	年4回	協会本部
(11)会誌「マンスリーかもつ」編集会議	月1回	協会本部

フマキラー(株)さんの出展ブース

「第12回JAPANドラッグストアショー」のブース内でエコレールマークを紹介

商品の認定について語る島田部長

エコレールマークの認定証

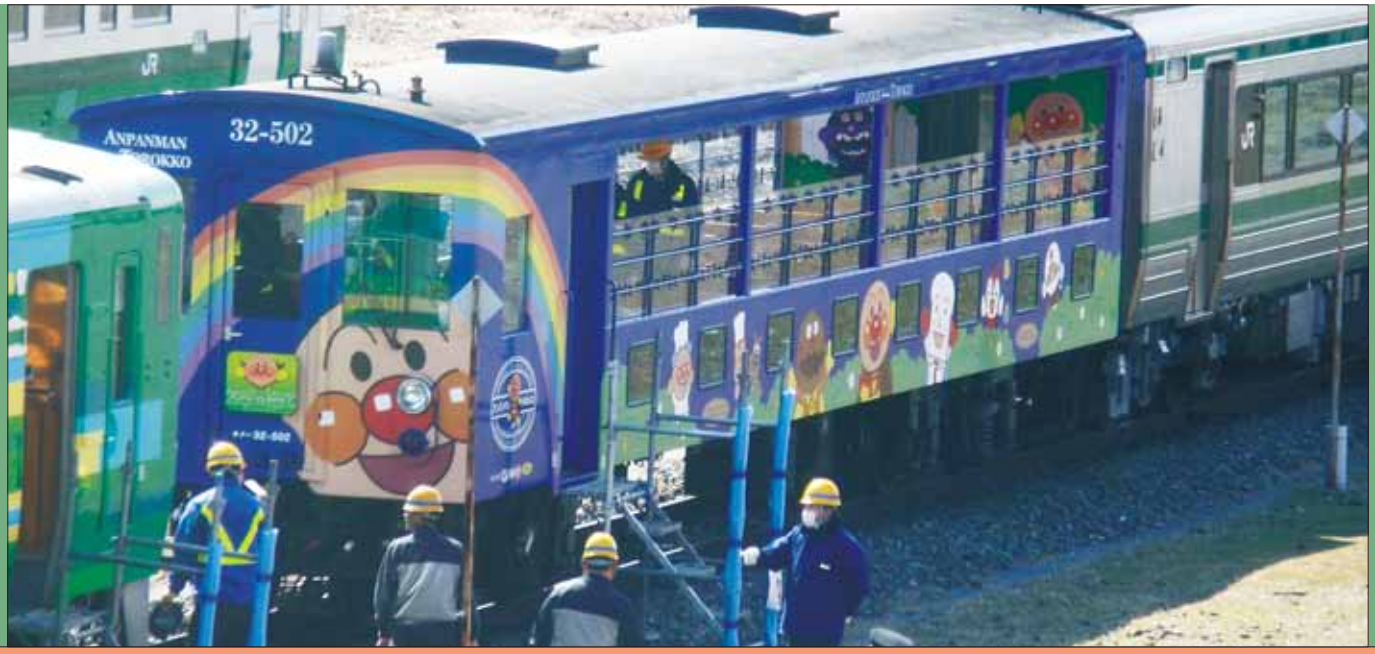
人の命を守る・人の暮らしを守る・人の環境を守る

フマキラー株式会社

平成24年3月16日～18日に千葉県の幕張メッセで、「第12回JAPANドラッグストアショー」が開催されました。その中の出展企業であるフマキラー株式会社のブース内に於いて、今年の3月2日に開催された第26回エコレールマーク運営・審査委員会で認定を受けたばかりの認定証を展示していただき、エコレールマークの紹介をしていただきました。

今回のエコレールマークの認定について、営業本部マーケティング部の島田貴史部長は、「とても名誉あることであり、社内に明るいニュースをもたらしました。当社の企業理念にある“人の命を守る、人の暮らしを守る、人の環境を守る”のもと何ができるか、今後も日夜考え続けていきたいと思います。」とコメントされています。

なお同社は、企業認定と商品認定を同時に受け、その認定商品には、「おすだけベープ」「どこでもベープ」「フマキラー蚊とり線香」「フマキラーAダブルジェット」「虫よけバリア」「フマキラーアルコール除菌」があります。



被災地の子供たちに笑顔を運んだアンパンマントロッコ車両

「こごた車両まつり」開催

貨物時刻表販売でイベントに参加

震災から復興に向けて「アンパンマントロッコ車両」を展示

4月7日（土）に、JR小牛田駅構内及び駅東口広場を会場として、「こごた車両まつり」が開催されました。今回は、JR四国の「アンパンマントロッコ車両」を展示し、「被災地の子供たちに笑顔と元気を!」を合言葉に、東日本大震災の復興支援に向けて開催されました。

当日は晴天ながらも強風で肌寒い一日で、イベントも終わりに近づいた頃突然雪混じりの強風が吹き荒れましたが、気動車や電気機関車（JR貨物のEH500『愛称 金太郎』）の展示、ミニSL･レールスターの試乗、鉄道グッズの販売、新幹線ペーパークラフト教室、物産店の出店に加え、「アンパンマンショー」も2回行なわれ、最後まで親子連れや鉄道ファンで大盛況でした。

当協会の「2012年版貨物時刻表」は、当イベントで鉄道グッズ販売を行って今年で5回目となる東北事業開発支店で販売しました。時刻表は事業開発支店の新商品「ED75 1039号機キーホルダー」（震災で津波に耐え抜いた機関車）と共に大変な人気で、時刻表はあっという間に完売してしまい、復興に向けて被災地の鉄道ファンのお客様に喜んでいただくことが出来ました。

貨物時刻表は完売!!

多くの来場者で賑わった物産展

親子連れで大喜びしたアンパンマンショー

お国自慢

平 清盛ゆかりの地　神々のいつくしま

宮島

厳島神社

広島市内から西へおよそ20km、山陽本線宮島口駅で下車し、フェリーでカキ養殖のいかだの浮かぶ海を渡ると、NHK大河ドラマ「平清盛」ゆかりの地、宮島に到着します。

昔から「神々がいつくしま」として厳島と呼ばれていた宮島は、島内に様々な文化遺産や自然遺産が点在しています。その美しい風景は「日本三景」と呼ばれており、1996年12月には「世界遺産」にも登録されています。その中でも瀬戸内海との調和が美しい厳島神社と大鳥居は観光スポットとして有名です。　　担当：広島支部（竹井紀子）

朱塗りが映える！ 厳島神社

社殿の創建は593年と伝えられ、その後1168年、安芸守だった平清盛によって現在のような寝殿造りに造営されました。潮が満ちると海へ浮かんでいるように見えとても幻想的です。

巨大なお菓子にもなる？！ 広島のシンボル大鳥居

木造として国内最大規模の大きさを誇り現在の鳥居は8代目です。昭和25年に水に浸かる下の部分が新しいクスの木に取り替えられましたが、その巨大なクスの木を運んだ貨車がトンネルの入り口で立ち往生したというエピソードもあったとか。来年は広島で92年ぶりに開催される全国菓子大博覧会「ひろしま菓子博2013」にてこの大鳥居を約10m四方の工芸菓子で再現される予定となるほど広島のシンボル的存在です。

★宮島食べ歩き★

もみじまんじゅうは広島の有名なお土産ですが、餡（あん）以外にも様々な味があるのをご存知でしょうか??オススメなのが注文してから揚げてくれるサクサクのもみじまんじゅう「揚げもみじ」。是非お試しあれ。他にも特産の穴子ちくわや焼きガキなど、食べ歩きの楽しみもたくさんあります。

第1回常任委員会を開催

■日時：平成24年4月11日［水］ ■場所：如水会館（東京都千代田区一ツ橋2-1-1）

私ども鉄道貨物協会は、昨年の11月1日をもって「公益社団法人 鉄道貨物協会」に衣替えしたことから、4月11日の「常任委員会」も第417回を「第1回常任委員会」に改め、開催されました。

また、昨年は東日本大震災のため開催を自粛させて頂いたことから、二年振りの「常任委員会」となりました。

当日は19名中15名の常任委員の方々にご出席賜り、冒頭、各委員の日頃の協会活動へのご理解とご支援に対し、米本理事長より御礼の挨拶がありました。

引き続き、常任委員会規則第7条に基づき米本理事長が議長となり、先ず、議題の1として平成23年度本部委員会活動である利用促進委員会のメインテーマ『情報システムの高度化による社会インフラとして災害に強い輸送体制に関する調査研究と提案』と、輸送品質向上委員会のメインテーマ『コンテナの臭気対策と機能向上に関する調査研究と提案』等についての活動状況が事務局より報告されました。

続いて、議題の2として平成24年度本部委員会活動計画（案）についての提案があり、審議の結果、提案通り承認されたところです。

尚、「平成24年度本部委員会活動計画」については、以下記載の通りです。

平成24年度 本部委員会活動計画

わが国経済は、復興関連需要の増加による内需の回復が期待されるものの、取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。今こそ、国の総力を結集して、被災地復興へのスピード感のある確実な対策と人口減少・地球温暖化対策等の諸課題に対応した交通基本法の制定及びその具体策の企画・立案とその果断な実行が強く求められています。

こうした中にあって、当協会は国民の生活に不可欠な物資をより安定的に供給し、かつ環境負荷を低減させるため、貨物の輸送方法について調査及び研究を行い、その成果として鉄道貨物輸送のもつ環境特性・安定性の普及啓発に資する事業を展開してまいります。

主な活動は、以下の通りです。

【本部委員会活動】

平成24年度の本部委員会は、昨年度に引き続き「利用促進委員会」、「輸送品質向上委員会」の二委員会構成とし活発な委員会活動を推進してまいります。併せて環境問題についても両委員会において当協会の基本活動である「エコレールマーク事業」と連携して積極的に取り組んでまいります。

委員会審議テーマについては、荷主企業会員の声を反映させるなかで、一委員会2テーマの計4テーマを選定し、委員会活動を進めてまいります。

●利用促進委員会

A. メインテーマ「鉄道コンテナ輸送の利用推進のための意向調査の実施および利用促進策の提案」

他輸送モードと比較した鉄道コンテナ輸送に対する評価等について把握し、多次元に亘って新しい切り口でその対策案を検討する。

B. サブテーマ「鉄道コンテナ輸送の利用促進に資する拠点およびインフラのあり方」

荷主意向調査により、鉄道コンテナ輸送の潜在的なニーズを把握したうえで、インフラ整備のニーズが高い候補地周辺の市場調査を行う。

●輸送品質向上委員会

A. メインテーマ「荷擦れ・荷崩れ対策としてのコンテナの内装及び養生材に関する調査研究と提案」

昨年の鉄道コンテナ利用のアンケート調査及びヒアリング調査においては、「荷擦れ・荷崩れ」が最も不便を感じていることから、コンテナ自体と養生材の両面から課題を調査する。

B. サブテーマ「鉄道コンテナ輸送事故防止資材の効果検証調査」

既存の防振機材で鉄道コンテナ輸送に利用可能な資材を選定し、その防振効果及び有効性を検証し、鉄道輸送用防振機材の実状を把握する。　以上

活動状況に耳を傾ける委員の方々

熱心に議案審議をする委員の方々

本部委員会の審議内容

公益社団法人 鉄道貨物協会

第1回 利用促進委員会 (H24.4.18)

今月から年度が改まり、今回は平成24年度の第1回「利用促進委員会」ということで、各委員の自己紹介から始まりました。

また、昨年度に引き続き、委員長に中島委員、副委員長に長谷川委員が再任され、4月11日に開催された「第1回常任委員会」において承認された、平成24年度本部委員会活動計画について事務局から説明ののち、議題審議に入りました。

【審議内容】

1. 平成24年度年間テーマ「鉄道コンテナ輸送の利用促進のための意向調査の実施および利用促進策の提案」について

日通総研佐藤担当部長より、年間テーマについての調査目的、調査方法と年間スケジュールの報告について確認いたしました。

2. 平成24年度サブテーマ「鉄道コンテナ輸送の利用促進に資する拠点及びインフラのあり方についての調査研究」について

サブテーマについての調査目的、調査方法と年間スケジュールの報告について確認いたしました。

3. アンケート調査事項等の審議

年間テーマ並びにサブテーマにかかる荷主企業の意向動向を把握するためのアンケート調査票の各項目についての審議を行いました。

【今後の予定】

1. 本部スケジュール

- 「第3回理事会」
  平成24年4月25日(水)15時～　於:如水会館
- 「平成24年度定時社員総会」
  平成24年5月28日(月)15時～　於:如水会館

2. 次回委員会

平成24年度「第2回 利用促進委員会」開催のご案内
平成24年5月17日(木)10時00分～17時30分
外部会議室(コンテナ取扱い施設、貨物駅見学含む)

第1回 輸送品質向上委員会 (H24.4.19)

今回は「利用促進委員会」同様、平成24年度第1回「輸送品質向上委員会」ということから、各委員の自己紹介から始まりました。

また、昨年度同様、委員長に犬飼委員、副委員長に渋谷委員を再任し、引き続き4月11日に開催された「第1

回常任委員会」で承認された、平成24年度本部委員会活動計画について、事務局から報告があり、その後議題審議に入ったところです。

【審議内容】

1. 平成24年度年間テーマ「荷擦れ・荷崩れ対策としてのコンテナの内装及び養生材に関する調査研究と提案」について

次に、ジェイアール貨物リサーチセンターの後藤次長より、昨年度の第8回委員会で了承された、上記年間テーマについての調査目的、調査方法の再確認と、年間スケジュールの報告がありました。

2. 平成24年度サブテーマ「鉄道コンテナ輸送事故防止資材の効果検証調査」について

続いて、日通総研の中島所長より、上記サブテーマについての調査目的、調査項目及び内容の説明がありました。

【今後の予定】

1. 次回委員会

平成24年度「第2回 輸送品質向上委員会」開催のご案内

平成24年5月17日(木)13時30分～15時30分
(公社)鉄道貨物協会　会議室

まとめ

委員会メンバーには一部入れ替えもあったことから、多少の緊張感のなかで始まった平成24年度第1回の本部委員会(利用促進委員会、輸送品質向上委員会)ではありましたが、自己紹介と共にその緊張もほぐれ、議案審議においては、熱心な審議の末、年間テーマ、サブテーマとも、一年間の方向性が確認されたところです。

この一年間で調査研究されることが、鉄道貨物輸送にとって有益な報告となることを委員会全体で確認したところです。「今年もどうぞ宜しくお願い致します。」

本部委員会年間スケジュール

平成24年　4月　第1回委員会
平成24年　5月　第2回委員会
平成24年　7月　第3回委員会
平成24年　9月　第4回委員会
平成24年 10月　第5回委員会
平成24年 11月　第6回委員会
平成25年　1月　第7回委員会
平成25年　2月　第8回委員会
平成25年　3月　合同委員会

※利用促進委員会、輸送品質向上委員会の開催日時は個別設定

平成24年度 本部委員会 委員のご紹介

アイウエオ順・敬称略
平成24年4月19日現在

利用促進委員会

役　職	所　属　役　職	氏　名
委員長	日本通運株式会社通運部長	中島　覚
副委員長	カゴメ物流サービス株式会社取締役推進部長	長谷川淨治
委　員	アサヒビール株式会社物流システム部 副部長	井石　明伸
委　員	日本石油輸送株式会社コンテナ部マネージャー	岩沙　裕之
委　員	全国通運株式会社鉄道部 鉄道部長	植田　新三
委　員	サッポロビール株式会社SCM本部サプライチェーンマネジメント部課長代理	遠藤三佐保
委　員	国土交通省鉄道局総務課貨物鉄道政策室課長補佐	岡部　聡
委　員	全農物流株式会社食料営業部長	金子　正彦
委　員	日清オイリオグループ株式会社ロジスティクス部企画・管理G開発T主管	川邉　秀人
委　員	味の素株式会社物流企画部専任部長	草野　文夫
委　員	社団法人全国通運連盟業務部長	栗原　洋幸
委　員	日本フレートライナー株式会社営業部営業部長	小林　敬司
委　員	日本製紙株式会社印刷・情報用紙営業本部営業企画部長	近藤　隆夫
委　員	花王株式会社ロジスティクス部門	酒井　雅次
委　員	国土交通省総合政策局物流政策課物流産業室課長補佐	関上　義明
委　員	ハウス物流サービス株式会社HFG事業部次長	園本　英孝
委　員	日本貨物鉄道株式会社運輸部輸送グループグループリーダー	高澤　弘人
委　員	株式会社日陸営業本部鉄道輸送部部長	田中　昭生
委　員	旭化成ケミカルズ株式会社物流部管理グループ長	西沖　茂
委　員	キリンビール株式会社SCM本部 物流部物流企画担当主査	西河　栄次
委　員	日本貨物鉄道株式会社営業部担当部長	姫野　健士
委　員	国土交通省 港湾局 計画課企画室長	宮崎　祥一
調査機関	株式会社日通総合研究所経済研究部担当部長	佐藤　信洋
事務局	常務理事業務部長(委員会幹事)	渡部　徹夫
事務局	業務部次長(委員会主査)	照井　隆男
事務局	エコレールマーク部次長(委員会幹事)	中村　彰

輸送品質向上委員会

役　職	所　属　役　職	氏　名
委員長	日本貨物鉄道株式会社コンテナ品質管理部長	犬飼　新
副委員長	日本運輸倉庫株式会社常務取締役営業開発部長	澁谷　榮
委　員	日本貨物鉄道株式会社コンテナ品質管理部	臼井　亮
委　員	日本パレットプール株式会社関東支店常務取締役 関東ブロック統括関東支店長	岡田　要
委　員	日本貨物鉄道株式会社営業部副部長	小野　善明
委　員	王子物流株式会社企画業務本部企画部マネージャー	小室　英史
委　員	国土交通省 鉄道局 技術企画課技術開発室課長補佐	作原　敏弘
委　員	日本車輌製造株式会社輸機・インフラ本部品質保証部担当次長	佐々木明宏
委　員	菱重コールドチェーン株式会社営業本部技術部部長	佐藤　滋男
委　員	日本通運株式会社通運部専任部長	鈴木　慎一
委　員	株式会社日立物流技術本部輸送改革部部長	田中　靖
委　員	株式会社総合車両製作所営業本部国内営業部 担当部長	丹澤　寛
委　員	極東開発工業株式会社直納部直需課課長	中村　和夫
委　員	全国通運株式会社営業第一部課長	野上　剛
委　員	日本フレートライナー株式会社営業部次長	野口　真一
委　員	日本貨物鉄道株式会社保全工事部 主席	日野　将規
委　員	三井化学株式会社物流部業務グループリーダー	平林　悟士
委　員	日本石油輸送株式会社技術部副部長	松浦　直也
委　員	北越紀州製紙株式会社営業本部営業企画部課長代理	山本　和之
委　員	センコー株式会社ロジスティクス営業本部関東営業部 課長	山本　実
委　員	キッコーマン食品株式会社物流部物流企画課主幹	吉田　秀人
委　員	TCM株式会社開発生産統括本部産業車両事業部産車開発部中型車グループ グループ長主任技師	和田　洋治
調査機関	株式会社ジェイアール貨物・リサーチセンター調査部次長	後藤　秀之
事務局	常務理事業務部長(委員会主査)	渡部　徹夫
事務局	業務部次長(委員会幹事)	照井　隆男
事務局	エコレールマーク部次長(委員会幹事)	中村　彰

鉄道といえば旅客輸送だけじゃない!
日本の物流市場で活躍する鉄道貨物輸送

2012時刻表 好評発売中

定価2,400円(税込)

公益社団法人 鉄道貨物協会

平成23年11月1日に公益社団法人に移行した鉄道貨物協会が「2012貨物時刻表」を「公益法人創立記念号」として刊行しました!

今号では、協会の調査研究事業としての各種取り組みを読者の皆様へご紹介させていただき、環境にやさしい鉄道貨物輸送が社会に果たす重要な役割を国民の皆様へ広く啓蒙させていただくための媒体としてリニューアル刊行いたしました。

まさに、時刻表の役割は、国民の皆様へ鉄道貨物輸送のもつ環境性能や安全性についての理解を深めてもらうための効率的な普及啓発活動として位置付けさせていただきました。

現在、全国指定販売書店及び当協会サイトでの直販を行っておりますが、鉄道ファンのみならず、幅広い読者の支持をいただいており、好評発売中です。

そこで、本誌において時刻表の一部をご案内させていただきますので、是非ともお知り合いの方々にも「2012貨物時刻表」のご紹介をお願い申し上げます。

巻頭企画コーナーのご案内

社会の様々な分野で活躍する鉄道貨物輸送特集!

1. 鉄道貨物協会は公益社団法人としてスタートしました
2. 鉄道貨物協会の調査研究事業
3. 地球の環境を守る「エコレールマーク」
4. 欧州における鉄道貨物輸送
5. 「モーダルシフト」先進国の事例紹介
6. 被災地への石油輸送
7. 鉄道貨物輸送による災害廃棄物輸送
8. 40フィートラックコンテナ
9. 暮らしを支える鉄道貨物輸送
10. 貨物列車の主な機関車紹介
11. エコレールマークちゃんWorld

巻頭企画（抜粋）

「モーダルシフト」先進国の事例紹介

スイスでは、憲法84条でアルプス通過貨物は、鉄道貨物輸送を行うことを明示しています。

特製付録

3D特製鉄道写真ハガキセット（2枚）

会員特典のご紹介

平成24年度継続特別個人会員の皆様への特典販売を実施中です。

●販売価格　1冊1,200円（送料無料）＋ 特別会員会費 7,000円 ＝ 8,200円
●会員限定　復刻版 昭和41年度版 貨物列車標準時刻表を贈呈
●会員限定　鉄道オリジナルオレンジカード（1,000円）を贈呈
上記会員特典での販売数はお一人様3冊まで可能です。（3冊まで送料無料）

注）新規ご入会希望の方への特典もご用意しておりますので、詳細については協会ホームページをご覧下さい。

会員限定版：昭和41年版時刻表（復刻版）

2012年版　特製オレンジカード

―編集部からのお願い―

会員として環境にやさしい鉄道貨物輸送を応援していただけませんか！

SAPPORO サッポロビール株式会社

〒150-8522　東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号（恵比寿ガーデンプレイス内）　TEL(03)5423-7407
http://www.sapporobeer.jp/

いつもお客様に喜んでいただける企業活動を目指しています。

千葉工場

グループの中核を担うサッポロビールでは、グループのCSR基本方針にある「いつもお客様に喜んでいただける企業活動」のもと、「お客様感動No1企業」を目指し、様々な事業を展開しています。当社は、1876年の創業以来135年間、原料から製造、物流、営業、供給方法にいたるお客様に飲んでいただくその瞬間までのすべての活動において、「おいしさ」と「安全・安心」に徹底的にこだわり、責任をもってきました。特に、自然の恵みの産物であるビールづくりに最も重要な麦やホップなど原料へのこだわりは、「麦芽とホップの全量協働契約栽培化」に結実しています。私たちは、今後ともこの恵みが引き継がれるよう、さまざまな活動をとおして社会的責任を積極的に果たしてまいります。

S A P P O R O　B E E R

その一環として、輸送効率と積載効率向上の追求による環境負荷低減とコスト削減に取組んでおります。コンテナ輸配送は大変有効な配送手段の一つであり、既に北海道（道北・道東・道南）、青森・秋田・岩手（一部）のお得意先様への配送、及び北海道～仙台・九州、仙台～千葉・九州各工場の拠点間輸送においてコンテナを利用した輸送体制を推進、定着化しております。

その結果、直近3年間で言うと2009年、2010年連続でSCM部門CO_2削減目標である原単位1%削減/年間の達成に寄与することができております。新たな取り組みとしては、既存の利用を拡大していくという観点で仙台～千葉工場間の拠点間輸送におけるコンテナ利用量を増やすことといたしました。2011年実績では前年に比べて年間約2,500t増となっております。また、その他工場間の輸送においても利用促進のため、条件整備（コストと輸送品質の両立）を進めてまいります。コストと輸送品質の両立という部分では、北海道における定温コンテナ配送を挙げることができます。ビール製品は温度管理が品質上大変重要な要素となっており、このため冬季（12月～3月まで）には凍結防止コンテナ（UR18A形式）による輸配送を行っております。低温による製品の凍結は品質に大きな影響を与えるものであり、これにより、安全・安心を合わせた形でお得意先様へ製品をお届けすることを実現しております。

このように、これらの取り組みは単に環境負荷低減活動という観点だけでなく、企業としての成長に結び付けていく「環境行動指針」として重要且つ大切なものと位置付け、サッポロビール社は更なるコンテナ利用の拡大を図ってまいります。

協働契約栽培
14人のフィールドマンがビールテイスト飲料の主原料である大麦・ホップの世界の生産地に足を運び安全を確認し、生産者と協力してその品質を高めています。
2006年には100%「協働契約栽培」化を達成しました。

創業当時の北海道の工場

恵比寿にある「ヱビスビール記念館」

黒ラベル　麦とホップ　ヱビスビール

コンテナに積み込まれ各地に発送

平成24年4～7月分実施項目

本　部

4月　5日(木)／会誌編集会議(協会会議室)
4月11日(水)／第1回常任委員会(如水会館)
4月18日(水)／第1回利用促進委員会(協会会議室)
4月19日(木)／第1回輸送品質向上委員会(協会会議室)
4月25日(水)／第3回理事会(如水会館)

●定時社員総会(如水会館)／平成24年5月28日(月)15時より

※総会出欠の返信は5月11日(金)まで必着でお願いします。

支　部

●東京支部　5月26日(土)／JRおおみや鉄道ふれあいフェア

平成24年度支部通常総会日程

支部名	期日	時間	会場
北海道	6月22日(金)	15:30	センチュリーロイヤルホテル
青　森	6月14日(木)	15:30	(株)アラスカ
盛　岡	6月13日(水)	14:00	ホテルメトロポリタン盛岡本館
秋　田	6月15日(金)	15:30	ホテルメトロポリタン秋田
仙　台	7月　6日(金)	14:00	ホテルメトロポリタン仙台
新　潟	6月21日(木)	15:00	ANAクラウンプラザホテル新潟
宇都宮	6月18日(月)	16:00	宇都宮ポートホテル
高　崎	6月12日(火)	15:00	ホテルメトロポリタン高崎
水　戸	6月15日(金)	15:00	三の丸ホテル
千　葉	6月15日(金)	15:00	京葉銀行プラザ
東　京	6月　5日(火)	15:00	芝弥生会館

支部名	期日	時間	会場
長　野	6月11日(月)	15:00	ホテルメトロポリタン長野
静　岡	6月21日(木)	15:00	ホテルシティオ
名古屋	6月14日(木)	14:00	名古屋商工会議所
北　陸	6月12日(火)	15:30	ホテル金沢
近　畿	6月25日(月)	15:00	ホテルグランビア大阪
米　子	6月20日(水)	15:30	米子ワシントンホテルプラザ
岡　山	6月22日(金)	15:30	メルパルク岡山
四　国	6月　5日(火)	14:50	リーガホテルゼスト高松
広　島	6月14日(木)	14:30	広島ガーデンパレス
九　州	7月　2日(月)	15:30	博多都ホテル

MONTHLY かもつ・5月号　第62巻・第5号　2012年（平成24年）5月1日発行（毎月1日発行）

発行／公益社団法人 鉄道貨物協会
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-8-4 吹田屋ビル4階
☎03-5256-0577　FAX03-5256-9220
鉄道貨物協会インターネットホームページアドレス http://www.rfa.or.jp

編集／公益社団法人 鉄道貨物協会・日本貨物鉄道株式会社
（株）ジェイアール貨物・リサーチセンター
印刷／（株）恒陽社印刷所活版事業部